



伝えたい  
残したい  
わがまちの  
誇り



下里地区  
Shimozato



# ふるさと の情景

VOLUME

22

下里地区(亥の子)

## 天

野山金剛寺のすぐ近くで古くから農の営みが続く下里町。

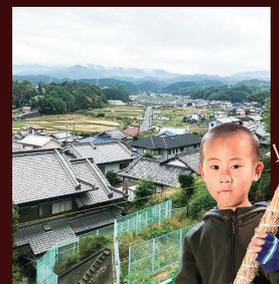
11月のある夜、地面を叩く「パンパン」という音と子どもたちの楽しそうな唄声が聞こえてきます。今や市内ではとても珍しい風景となった「亥の子」です。次の年の豊作を願う行事で、子どもたちが地区を練り歩き、家の玄関先で亥の子唄を歌いながら、稲わらで編んだ「イノコヅチ」と呼ばれる棒で地面をたたくと、大人たちがお小遣いを渡します。

## 歌

亥の子餅祝いましよ、今年は豊年でよいけれど来年も豊年であるように亥の子亥の子亥の子の晩に重箱ひろて中開けてみればほかほか饅頭いっただそれいっただもひとつおまけにいっただ」というものです。

## か

つては亥の子に参加していた子どもも、今では大人となりお小遣いをあげる側に。亥の子唄やイノコヅチの音に、昔を思い出して懐かしくなる人もいます。今も昔も変わらない、下里の晩秋の情景です。



1各戸の玄関先で家の人も笑顔でお迎え 2イノコヅチを持って全員集合さあ出発だ 3最近では保護者も一緒に一晩で30軒以上まわります

## ふるさとのひと

小谷 徳尚とくひささん

50数年前、私が子どものころは男子だけで家々を回りました。上級生に唄を教わりながら懐中電灯をさげて、最後は街灯の下に集まり、いただいたお小遣いを分けてもらってうれしかったことを覚えています。

最近ではカラフルな紐で巻いたりしていますが、当時は藁で編んだ縄で巻き、いい音が出るよう、イノコヅチの芯にズイキの茎を入れて改良するなど楽しんでました。長い歴史を持つ下里で、子どもの唄声が村中に響く大切な風習。これからも引き継いでいきたいものです。

